

# 静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2025/3/26)／アクションプランシート（経営学部）

経営学部	基本方針	<p>1. 高等教育機関としての役割を認識し、教育・研究・社会貢献に努める。教育面においては、学生一人ひとりを社会の責任ある担い手として育てていく。すなわち高い専門性と幅広い教養を身につけ、創造性・独創性・倫理観・自ら成長する力を持つ人材として育成する。研究面では真理の地道な探求から新たな知見の創造に努め、成果を社会に公表する。これら教育と研究によって社会に貢献するとともに、その過程において地域社会との関わりを強く持ち社会貢献に努める。</p> <p>2. こうした活動を積み重ねることにより、経営学部の地域社会における存在価値の増大、地域社会の公器としての持続的発展を図るものである。</p>				
	最重要事項	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	1. 「経営学部教育目標」「3ポリシー」の実践	<p>新経営学部の「学部教育目標」と「3ポリシー」の策定を終えたので、この策定結果に基づき、カリキュラム（科目、科目群、卒業要件など）の策定を進める。</p>	<p>学生が体系的に学ぶことができるよう科目・科目群を整理し2025年度経営学部の新カリキュラムを策定した。</p>	<p>上期に策定した新カリキュラムに基づいて、科目・科目群を整理し、それに対する教員を割り当てた。また、専門ゼミナールを必修化し、卒業研究を6単位にした。</p>	<p>1 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）</p>	
	2. 学生一人ひとりにとっての、卒業までの有効な学修の支援	<p>教務システム内の学生データを統合して「入学時の入学試験データ」「1年次～4年次までの成績データ」「PROGデータ」「面談データ」「就活支援状況データ」「内定情報」などを閲覧できるように拡充を進めていく。</p> <p>テキストデータだけでなく、写真、映像などもアップできるように準備する。（海外研修、学外研修などの様子や、作成した作品データを分かりやすく伝えられるように）</p> <p>父母等が情報を閲覧するだけでなく、書込みや書類の提出ができるように準備を進める。</p>	<p>学生ポータルサイトとドライブで管理されているため、今後は学生ポータルサイトで一元管理するよう進めていく。しかし、そのためには現段階で運用している学生ポータルサイトのシステムでは限界があるため、業者を変更し、データを移行する必要性がある。学生の作品データをアーカイブとして管理できるよう調整していく。学生支援課、保健センター、カウンセリングルーム及びアドバイザー教員等が連携して学生の相談指導を行う。</p>	<p>学生ポータルサイトとドライブで管理されており、未だ一元管理されていない。運用しているシステムでは限界があるため、新たなシステムへ移行することを検討したい。</p>	<p>2 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）</p>	
	3. 教育の質保証の向上	<p>入学時の入試データ、PROG、その他外部試験の結果と本学の成績、就活データを一括して比較できるように準備を進める。</p>	<p>データが未だ一元管理されていない。入試データはキャリア支援課、PROGは業者、成績は教務課が管理している。システム上で管理しようとせず、クラウド上で一元管理の方が良いかと考える。</p>	<p>未だデータは一元管理されていない。PROGテストの実施を新入生オリエンテーション時にした。これによって、早期にPROGテストの結果を各教員が把握し、それに応じた教育を行なえるよう検討した。</p>	<p>3 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）</p>	
	4. 課外活動の促進 ・学生生活全般を教育と捉え、部活動、サークル活動、ボランティア活動等課外活動を活発化させ、学生の主体性、積極性、規範性、思考力、自信の全般的向上を図る。	<p>課外活動の充実に向けて、前年度の活動実績をテキストだけでなく、写真、映像でも閲覧できるように整備する。</p> <p>学園祭の準備状況を逐次閲覧できるようにし、SNS等も活用して在学生や高校生に向けて発信し、関心を高める。</p> <p>部活動の状況を在学生にも見やすくし閲覧できるようにし、映像等を活用して楽しい学園生活を伝えていく。</p>	<p>対面式の学園祭が復活して2回目となり、上級生と下級生の連携強化を図った。</p> <p>高校ダンス部を招いたイベントを行い、地域の高校生にPRできた。</p>	<p>課外活動の紹介は大学HPのNEWS &amp; EVENTSで「お知らせ」「イベント」59件、TOPICSでは「教育活動」40件、「地域連携」36件「スポーツ」25件「イベント」17件「学校行事」5件「学生活動」4件「課外活動」3件「その他」6件を紹介した。静岡産業大学youtubeチャンネルでは、「ゼミプロジェクト紹介」6件「Student life/学生生活」8件「体験授業」8件「その他:イベント」5件「ショート」2件（過年度を含む）を発信している。今後も発信を充実させていきたい。</p>	<p>4 ◎経営学部長（佐野） ●学生委員長（高橋・谷口昭） △学生支援課（増田・萩原）</p>	

<p>5. 就職実績の維持</p>	<p>PLCの活動状況、公務員塾、就職塾、会計塾などの紹介ページを拡充していく。</p>	<p>大学ウェブサイトのキャリア・就職のページから就職状況、キャリアサポート体制、教員採用試験対策、公務員塾、資格取得支援、社会で活躍する卒業生の紹介を行っている。2023年度就職状況が確定した、5月から7月にかけて進路実績（就職率）を更新するとともに、キャリア支援体制を今年度に合わせた内容に変更した。その他、6月3日（月）2限のキャリアデザイン講座IIで実施した社会人講話の様子を掲載し、本学のキャリア支援の取組みを学内、学外へ発信した。</p> <p>就職実績については、就職内定率が64.0%（日本人67.5%）となっており、前年同時期の53.0%（日本人56.4%）に比べて進捗が良くなっている。キャンパス別では磐田C 61.3%（日本人62.5%）※前年同時期40.7%（日本人41.3%）、藤枝C 66.0%（日本人71.6%）※前年同時期67.5%（日本人76.9%）となっている。磐田Cで新たに実施した個別調査の成果により全体の進捗は良くなったが、藤枝Cでは7月以降に進捗が鈍化しはじめたため、数値が前年を割った。県内他大学での進捗は7割超のため、本学の進捗はやや遅れ気味と言える。今後、学生への教員と連携した後押し、学生への個別フォローを実施することで、就職内定率100%の達成を目指す。内定先には関しては前年と同じように、内定を得ていない企業（例. 静岡銀行、鈴与）が加わっている。</p>	<p>・HPページの掲載については、「後付推薦制度」を認めない、就活エージェントに対して、学生の自由な意思を阻むことがないように等の大学としての就職活動に対する指針を2月中に発信する予定。その目的は学外の関連企業および団体に発信するのみならず、学内の構成員に周知することにある。</p> <p>その他、11月にはキャリアデザイン講座IIIで行った「就職活動を経験した4年生による講話」、「社会人（卒業生）講話」、「企業研究会」の様子をTOPIXに紹介し、本学のキャリア教育の様子を大学内外に発信した。</p> <p>・就職実績（1月31日現在）は81.6%（日本人86.1%）、昨年比+3.6%（日本人3.7%）となっている。キャンパス別では磐田C82.6%（日本人83.5%）※前年同時期71.1%（日本人72.8%）、藤枝C83.4%（日本人88.3%）※前年同時期84.2%（日本人88.8%）。下期は足利市役所、法務省中部矯正局（刑務官）、宮崎県警察、山梨県農業共済組合等から採用内定（合格）を得ている。未内定者に対して、キャリア支援課では一人ひとりの履歴を課内で共有してサポートを継続している。また未内定者のリストにもとづき、就職委員会では教員の持つ情報とを突き合わせて、キャリア支援課を側面より支援している。</p> <p>・未内定者の半分程度は成績不良者で、従来は後期の成績発表とともに卒業不可の学生は就職希望から外すことで就職率を上げてきた経緯がある。つまり、内定獲得と成績（単位取得数）とは関連があり、上記のことを繰り返せば、就職率向上のための本質的問題に迫れないことから、教授会等で情報発信を行い教務関連部署への示唆を継続して行う。</p>	<p>5</p> <p>◎経営学部長（佐野） ●就職委員長（宮田） △キャリア支援課（日高・齊藤）</p>
<p>6. 入学者の確保</p> <p>・教育内容、就職実績、入試広報など、教職員一丸となった全学体制で入学者募集力を向上させ、大学・学部の活性化及び経営の安定を実現する。</p> <p>・経営学部定員350名以上の入学者の確保実現。</p>	<p>・<b>アーリーエントリー入試</b>の効果的実施のために広報にて周知→オープンキャンパス参加→<b>面談実施+フォロー</b>→<b>課題レポート提出フォロー</b>→出願許可証発行→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→出願→合格後のフォロー、の流れを確実に実施する。</p> <p>・<b>探究活用入試</b>の効果的実施のために、広報にて周知（<b>プレゼン【専願】</b>、<b>ミニレポート【併願】</b>を周知）+<b>探究出張講座</b>の拡充→夏の探究プレゼン講座（<b>期間短縮の周知</b>）の拡充→<b>オープンキャンパスでの探</b></p>	<p>・アーリーエントリー入試についてはweb等によって広報を行ったが、さらに周知の余地がある。実施面に関しては、当日受付等若干の混乱が見られたので、次年度以降に検討の必要がある。</p> <p>・探究活用入試については専願入試であるプレゼン型と、併願入試のミニレポート型に分けたが、十分に周知できなかった点がある。後期より次年度に向けた検討が必要である。</p>	<p>アーリーエントリー入試は導入初年度にも関わらず、期待以上の応募を得ることができた。入試課の努力によって、応募者の辞退もほとんどなく十分な成果があげられたと考えられる。次年度は実施回数を増やす予定であり、受験生に対するより一層の周知を行い、応募者の増加に繋げる。</p>	<p>6</p> <p>◎経営学部長（佐野） ●副学部長（山田） ●入試課（鈴木） △入試課（吉川） △広報メディア課（岩崎）</p>

		<p>究ミニレポート対策窓口設置→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→試験後のフォローの流を確実に実施する。</p> <p>・総合型選抜【オープンキャンパス参加型】の効果的実施のために 広報にて周知→オープンキャンパス参加+オープンキャンパスでのオープンキャンパス参加シート兼志望理由書記入対策窓口設置→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→試験後のフォロー、の流を確実に実施する。</p> <p>並行してWebオープンキャンパスについてを広報にて周知（Web体験授業映像の拡充+Webサイトの見直し（zoom等でのオープンキャンパス参加シート兼志望理由書記入対策相談窓口設置）を実施する。</p> <p>・同様に【諸活動評価型】の効果的実施のために 広報にて周知→オープンキャンパスでの諸活動実績シート兼志望理由書記入対策窓口設置→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→試験後のフォローの流を確実に実施する。</p> <p>・1, 2年生に向けた探究活動サポート（未来ラボ等）の充実</p>	<p>【入試課】・保有リストへのDM等による本学への接触者の強化。入学者の確保実現に向けて大学の認知度向上及びオープンキャンパスへの集客、Webオープンキャンパスの周知を行い、出願へ繋げる。</p>	<p>探究入試については、合格者の入学後の学びについて検討を行っている。基礎ゼミにおける個別対応や、合格者の興味・関心に合わせて教員の紹介など、多くの意見が出されている。今後早急に、具体的な方策への落とし込むことによって、学修への動機づけを上げてゆく必要がある。</p> <p>総合選抜入試中、オープンキャンパス参加型入試について、オープンキャンパスにおける体験授業の改善が検討されている。対話型の模擬授業を通して、より応募しやすい環境を整えるよう検討が行われている。</p> <p>【入試課】年内入試においては、昨年度より増となっている。年明け入試においてWeb、SNS等の適時適切な活用により出願増につなげていく。</p> <p>今年度の前半の活動を振り返り、次年度の対面式オープンキャンパスの内容の充実、Webオープンキャンパスの内容の充実と告知の工夫を行うとともに、集客から出願への円滑な流をつくる。</p>		
7. 離学者の防止		<p>・1年生 基礎ゼミのグループごとに学園祭、オープンキャンパスへの参加（模擬店やゲーム大会運営、基礎ゼミ活動の展示等）の流を誘導する</p> <p>・2年生 専門演習や海外研修の履修者グループごとに学園祭、オープンキャンパスへの参加（活動内容や研修内容の展示等）の流を誘導する</p> <p>・3年生 専門ゼミナールのグループごとに学園祭、オープンキャンパスへの参加（模擬店やイベント、活動内容の展示等）の流を誘導する</p> <p>・父母等の連携強化、ポータルサイトの活用</p> <p>・長期履修学生制度の周知と効果的活用</p> <p>・1, 2年生向けイベントの実施（アウトドア派向け スポーツ大会、BBQ等。インドア派向け ゲーム大会、映画鑑賞会、音楽鑑賞会、コンサート等）+国際交流イベント</p>	<p>【教務委員長】学園祭、オープンキャンパスへの参加を促す仕組みが未だ整備されていない。</p> <p>学業や生活の悩みについて、カウンセリングルームの積極的な利用を促している。</p> <p>【教務委員長】父母等にも、学生の成績及び出席管理システムの状況を共有するようになった。</p>	<p>【教務委員長】学園祭やオープンキャンパスへの参加を促す仕組みが未だ検討されていない。次年度より、専門演習を増やすため、そこでの成果を学園祭やオープンキャンパスで発表するよう促していきたい。</p> <p>【学生委員長】鳳翔祭のイベントは学友会企画の他、ゼミ企画3件、部活サークル企画7件、蒼樹祭のイベントは学友会企画の他、ゼミ企画2件、部活サークル企画8件であった。</p> <p>学園祭への、基礎ゼミ、専門演習、海外研修などのグループ参加を促す仕組みは検討されていない。学園祭の開催日はこのところ11月初めの連休であったが、地域自治体主催のイベントに参加する学生が複数いるため、次年度より日程を変更する予定である。</p>	7 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） ●学生委員長（高橋・谷口） △教務課（佐野温・中村） △学生支援課（増田・萩原）	

項目別アクションプラン				
2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
<教育>				
1. 引き続き、ポータルサイトで入口（入試データ）、在学中（学修データ（GPAを含む）、資格取得データなど）、出口（就職先データ）を一元管理を進める。	キャリア支援課と教務課で管理されているデータが存在する。それを一元管理するのは難しいため、クラウド上で共有していくよう整備している。	未だキャリア支援課と教務が夫々でデータを管理している。そのため、クラウド上で共有できるよう整備していきたい。	1～4 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）	
2. 地域連携、アクティブラーニングの活動について写真、映像でも紹介できるように拡充しながら探究活動の充実につなげる。	写真、映像、パネル、Webを活用し学外へも積極的に報告できる仕組みを検討していきたい。	地域連携やアクティブラーニングの活動を本学のWebページのニュースで積極的に公開した。		
3. BiViキャンを地域の「探究活動の拠点」と位置づけ、加えて活動の様子を常設パネル等で紹介するとともにWeb特設ページを作成し紹介する。				
4. 海外研修の充実 前年度研修の報告会（在学生向け：参加者増に向けて）、海外研修紹介Webサイトの作成（写真+動画など）を実施する。	ワイカト大学を視察し海外留学紹介スライドを作成した。学生へ積極的に紹介していきたい。	海外研修の報告会を実施するとともにWebサイトでも写真を添付して公表した。		
5. インターンシップの拡充 代表的なインターンシップ先やインターンシップ活動内容を紹介したWebサイトの作成（学内外に向けた実績紹介）	オープンカンパニーが主流な中で、受入企業および履修学生も低迷した。一方し、キャリア支援課の協力の下、受入企業とは教育実践プログラムの検討会を重ね、就業内容の質の保証を行った（2024年3月15日、4月19日、5月24日）。また、実習内容を学生に可視化するため、受入企業の協力の下、ポスター、プロジェクトシート（内容を示した書類）の他に、今年度は3分程度の動画を作成した。また、企業との教育実践プログラムの検討会の紹介を文部科学教育通信（ジヤーズ社）に2025年2月以降、2回にわたり寄稿予定。	教職協働の取組として教育実践プログラムを来年度も継続。23・24年度の取組内容が文部科学省通信No.559（3月10日刊行）、No.560（3月24日刊行）に掲載され、本学の取組をアピールする機会を得た。また、次年度は本学だけの取組にせず、大学機関横断的に拡大すべく、ふじのくに地域・大学コンソーシアムにも2月18日に訪問し協力要請を行い了承いただいた。	5 ◎経営学部長（佐野） ●就職委員長（宮田） △キャリア支援課（日高・齊藤）	
6. 探究入試の入学者の学びのフォローと入学後の学習活動追跡取材とそのフィードバック利用	探究入試の入学者を基礎ゼミの待生クラスに配置し、アドバイザー教員の高大連携や地域連携活動に帯同させる等の経験を通じて現実課題に向き合うことで、探究スキルを深めることを推奨している。当該学生の入学後の学習活動追跡については、アドバイザー教員のポートフォリオへ入力の徹底を引き続き依頼していきたい。	探究入試の入学者に対して前期基礎ゼミでは特別な指導を行ってもらうようアドバイザーに促したが、後期は基礎ゼミがないため、具体的にどのような特別指導を行ってもらったか明確に示されていない。次年度は、後期における指導法を担当教員へ示していきたい。	6 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）	

経営学部	<p>7. 会計塾、公務員塾、PLC等の効果的運用 それぞれの塾の学内外への周知と塾生の拡充（塾のWebサイトの作成（塾生の紹介や、資格試験、資格取得状況、塾の活動状況、在籍塾生数等）</p>	<p>公務員塾は上期は26名が受講（両キャンパス、経営学部）。受講中の4年生の中から行政1名（牧之原市）、自衛隊（一般幹部候補生2名、一般曹候補生1名）、警察（静岡県警察1名）が合格。 就職塾の上期の経営学部受講者（5回以上）は、藤枝2名、磐田2名。ビジネス塾の上期の経営学部受講者（5回以上）は、藤枝2名、磐田0名。受講者が少なく、加えて、大学の方針とも必ずしも一致せず、全面見直しを含めた再検討を今後行う。 会計塾、教員試験突破塾は教務課が運営担当で本委員会の管轄外であるが、参考値として掲載（次回以降は教務課等で対応ください）。 会計塾の受講者は経営学部20名（藤枝15名、磐田5名）。経営学部の受講者の中から日商簿記1級合格者が出ている。 教員試験突破塾は経営学部は対象外。</p>	<p>公務員塾は下期は29名が受講（両キャンパス、経営学部）しているが、希望する就職先の採用を得た4年生は受講を終了し始めている。下期の受講者（4年生）1名が法務省・名古屋矯正局（刑務官）に合格、就職を決定している。 就職塾の下期の受講者（8回以上出席）は藤枝2名（3年生2名）、磐田3名（3年生3名）だった。 ビジネス塾の下期の受講者（8回以上出席）は藤枝キャンパス7名（4年生3名、3年生1名、2年生1名、1年生2名）、磐田キャンパス2名（3年生1名、2年生1名）だった。ビジネス塾の受講者の中から秘書技能検定2級3名、ビジネス検定に10名が合格した。 なお、来年度は就職塾、ビジネス塾ともに内容を改編し、「就職支援塾」として専任教員が担当する。 教員試験突破塾は経営学部は対象外。</p>	<p>7 ◎経営学部長（佐野） &lt;公務員塾・就職塾等&gt; ●就職委員長（宮田） △キャリア支援課（日高・齊藤） &lt;会計塾&gt; ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）</p>	
	<p>8. 「選抜クラス」「保育士養成課程」の効果的運用 「選抜クラス」学生の1, 2年生 合同宿泊研修等の検討（びく石キャンプサイトバンガロー等利用）</p>	<p>「選抜クラス」の学びの強化を今後検討していく。 「保育士養成課程」は23名が履修中。 星槎大学幼免取得をめざす学生もおり保育の魅力をさらに広げたい。実習に向けた指導・支援は、個々の学生の状態に応じてきめ細やかに行うことができている。</p>	<p>「保育士養成課程」においては引き続き教員のきめ細やかな指導が行われているが、1年生1名、2年生1名が進路変更のため、履修を取り消す予定である。進路変更が可能であることは、一方では経営学部付置の強みであると考えている。1年生を対象に幼免取得支援のため説明会を実施し、うち2名が星槎大学通信教育課程の申請をした。また、近隣の施設、保育所等における学生の現場体験の機会も増えており、各施設との関係強化に繋がっている。また、「保育士養成課程」の設置取り止めに伴い、関係機関（磐田市、静岡県保育連合会等）にあいさつを済ませた。2025年度以降は「保育士養成塾」として保育士養成に取り組むことについてご理解をいただき、これまで同様、保育士養成に関わる研修会などの情報をいただくことをご了承いただいた。加えて2025年度からのカリキュラムで「スポーツ保育」の学びを全学科目に配置することで全学的な取組みとして充実を図っていく。</p>	<p>8 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） ●保育士養成課程委員長（入江） △教務課（佐野温・中村）</p>	<p>保育士養成課程から保育士養成塾への移行について、学内、学外に向けて正確な情報を周知していく。</p>
<p>&lt;研究&gt; 1. 紀要、学内研修会の充実  2. 科研費等、外部資金獲得の充実</p>	<p>紀要「環境と経営」第30巻第1号は原著論6本を含む全8本が掲載された。多数の投稿があり、質・量ともに充実しつつある。この傾向が次号も続くよう、センターをあげて努力したい。 科研費等の外部資金獲得のための申請を促した。今後は申請書作成におけるポイントを共有できるような講習会を検討していきたい。</p>	<p>紀要「環境と経営」第30巻第2号は原著論9本を含む全11本が掲載された。多数の投稿があり、質・量ともに充実しつつある。この傾向が次号も続くよう、センターをあげて努力したい。 外部資金獲得のための申請書提出方法について示した。ふじのくに・コンソーシアムや学外企業からの外部資金についても申請を促していきたい。</p>	<p>1 ◎経営学部長（佐野） ●経営研究センター長（熊王） △教務課（佐野温・中村）  2 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）</p>		

	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p>&lt;地域貢献&gt;</p> <p>1. 地元市町、商工会議所、地元企業との連携、学生参加プロジェクトの充実</p> <p><b>活動状況の効果的な紹介</b> (BiViや学内でのパネル展示等)</p> <p>2. 出張講座・講演、受託研究など、地域貢献の可能性の検討及び充実</p> <p>出張講座・講演の実績、受託研究の実績などをWebサイトなどで効果的に伝えたとともに申込みサイトなどを拡充し外部から依頼しやすくする。</p>	<p>蒼樹祭(磐田C学園祭)では4年ぶりに地域の方のフリーマーケットが開催された。鳳翔祭(藤枝C学園祭)では地元高校のダンス部によるパフォーマンスを開催した。</p>	<p>1 学生参加プロジェクトの活動状況は、大学HPで随時発信している。ゼミ研究については、BiViで開催した「卒業研究・制作展」でパネル展示を行った。今後は、学内ギャラリーにパネルを展示するよう検討する。</p> <p>2 Webサイトへの掲載を希望した教員の出張講義しか掲載されていないため、今後は、出張講義後にWebサイトへの掲載データを提出してもらうよう促していきたい。</p>	<p>1 ◎経営学部長(佐野) ●学生委員長(高橋・谷口昭) △学生支援課(増田・萩原)</p> <p>2 ◎経営学部長(佐野) ●教務委員長(永田) △教務課(佐野温・中村)</p>	
	<p>&lt;入試&gt;</p> <p>1. ・<b>アーリーエントリー入試</b>の効果的な実施 4月、5月における集中的な周知活動 オープンキャンパスでの手厚い指導とフォロー(面談指導、課題レポート指導) 出願につなげる工夫</p> <p>・<b>探究活用入試</b>の効果的な実施 探究学習の支援充実 プレゼン講座(本学での夏講座と出張型プレゼン講座)の充実 ミニレポートの指導 出願につなげる工夫(探究発表会の実施等)</p> <p>・<b>総合選抜型</b>(オープンキャンパス参加型) オープンキャンパス参加シート兼志望理由書記入対策窓口設置 <b>Webオープンキャンパスの効果的活用</b> <b>Webオープンキャンパス体験授業映像の拡充</b> <b>Webオープンキャンパス紹介サイトの見直し</b></p> <p>・<b>総合選抜型</b>(諸活動評価型) 諸活動実績シート兼志望理由書記入対策窓口設置</p>	<p>・アーリーエントリー入試 6月・7月および8月のオープンキャンパスにおいてアーリーエントリー入試を実施した。事前の周知は必ずしも十分であったとはいえず、また、実施段階で準備段階では予想できなかった事態が生じたが、回を経るごとに実施が円滑化され、結果的に予想を上回る志願者を得ることができた。入試課による応募者へのフォローアップもあり、応募者の大多数が出願見込みである。</p> <p>・探究活用入試 探究プレゼン入試を探究活用入試と変更し、プレゼン型とミニレポート型に分割して実施することとした。</p> <p>・総合型選抜 webオープンキャンパスについては、受験生だけでなく低学年の高校生にも向けたより一層の周知が必要である。</p>	<p>・アーリーエントリー入試 本年度のアーリー入試受験者の志願状況から、次年度も一定数の受験・応募が期待できる。そこで、次年度は実施回数を増やすだけでなく、面談の待ち時間の短縮など、受験者へのサービスを向上させ、より多くの受験者を獲得するよう、実施方法の改善を行っている。</p> <p>・探究活用入試 本年度から探究活用入試が前項にある通り、2種類に分割された。分割によって応募者の増加など、顕著な変化は認められなかった。しかし、学修意欲の高い学生の獲得が見込まれるため、出前講座などの支援のより一層の充実が必要である。</p> <p>・総合型選抜 webオープンキャンパスについては現状、十分な受験募集につながっているとはいえない。Web上の告知の工夫や、コンテンツのリニューアル、対面のオープンキャンパスと組み合わせるなど、工夫が必要である。</p>	<p>1 ◎経営学部長(佐野) ●副学部長(山田) △入試課(鈴木)</p>	
	<p>&lt;就職&gt;</p> <p>1. 「<b>就職に強い静産大</b>」の周知 実績は揃っているのでそれを<b>効果的に周知</b>する</p>	<p>効果的な周知方法について検討中である。</p>	<p>「就職に強い静産大」の認知度向上に向けた取り組みとして、引き続き本学の強みである「就職」に関する情報配信を強化している。特に、「社会で活躍する卒業生」のページ情報を更新し、実績に基づいた情報を提供することで、学外の理解と信頼を深めている。また、就職内定獲得情報に関しては、2025年6月頃から順次SNSを活用した情報発信を開始する予定である。この取り組みにより、より多くの学生や外部の関係者に向けて、静産大の就職支援の実績や魅力を効果的に伝えていく。</p>	<p>1 ◎経営学部長(佐野) ●広報・メディア課(岩崎) △キャリア支援課(日高・齊藤)</p>	

	<p>2. 資格取得サポートセンターの周知 各種、塾との連携と実績の周知の徹底</p> <p>3. 卒業生との連携強化 30周年のさまざまな行事、発行媒体、イベントを効果的に活用。産大愛への接続。</p>	<p>資格講座、会計塾などの案内を積極的に行った。</p> <p>開学30周年記念事業においては、同窓会から多大な資金援助を受けるとともに、海外同窓会等の記念事業に対して同窓会理事等の参画を予定している。また、作成中の記念誌においては、選定した卒業生に依頼し、記念の写真とともにメッセージを寄せってもらうこととしている。</p>	<p>資格取得サポートセンターとして、本学学生の複合的な資格取得・検定合格を推進するため、経営学部との学びと関連が深く、一般的な認知度が高く、金融機関をはじめニーズが高い、ファイナンシャル・プランニング技能士の資格取得を進めるため、12月18日（水）12時40分～13時15分にかけて、「FP資格の取得に向けた説明会」をハイフレックスで開催した。オンライン、両キャンパスの会場から30名弱の学生が出席した。また、総合研究所が行っている資格取得講座（ファイナンシャル・プランニング技能士2級と3級の講座）の紹介を行い、受講促進を図る取組みを総合研究所と連携して行った。来年度も同様の取組みを行うことを計画している。</p> <p>本学同窓会の役員に対して令和7年2月14日に開催した「開学30周年記念式典」への招待状を送付し、当日9名の参加を得た。式典においては、同窓会から本学あての寄付金贈呈の場を設定し、会長、副会長から学長に対して350万円の寄付金（目録）が贈呈された。また、「開学30周年記念誌」の作成に当たっては、同窓会の会長、副会長をはじめとした同窓会メンバーの協力を得て「卒業生からのメッセージ」のコーナーを設けることができた。</p> <p>さらに、開学30周年記念事業として、同窓会の協力を得て、令和6年11月23日にインドネシア・ジャカルタ会場で、12月21日に中国・福州市会場で本学初の「海外同窓会」を実施した。ジャカルタ会場では、卒業生20人と本学教職員と同窓会員8人が集い、福州市会場では卒業生14人とその家族、本学教職員と同窓会員5人が集った。旧交を温めるとともに、現地大学等を表敬訪問し、今後更なる海外展開のきっかけを作ることができた。</p>	<p>2 ◎経営学部長（佐野） ●就職委員長（宮田） ●教務委員長（永田） △キャリア支援課（日高・齊藤） △教務課（佐野温・中村）</p> <p>3 ◎経営学部長（佐野） ●学長補佐（澤野） △企画調整室（吉添）</p>	
	<p>&lt;広報&gt;</p> <p>1. 経営学部の磐田キャンパス・藤枝キャンパスの特色を明確化 キャンパスごとの<b>コースの内容を特色化</b> 磐田市、藤枝市との連携を特色に昇華する</p>	<p>・キャンパスごとのコース内容の特色化は必ずしも達成できていない。25年度のカリキュラム編成にて特色を出してゆく必要がある。</p>	<p>25年度より始まる8コース制の実施に伴い、教員のコース配置が行われた。藤枝キャンパスのメディア系コースや磐田キャンパスのものづくり系コースなど、キャンパスごとの特色がある程度出せられる。今後は学生への周知が重要である。市との連携については、各キャンパスが地元自治体と連携しているが、連携が特色となっているかは不明である。また、市との連携は現状では各教員の裁量に負うところが大きい。</p>	<p>1 ◎経営学部長（佐野） ●副学部長（山田） △広報・メディア課（岩崎）</p>	

<p>2. 経営学部の「実学教育」「ICT」「データサイエンス」「デザイン」「心理」「スポーツ」「就職」「地域志向」等の特徴を強調</p>	<p>教員の大学祭への積極的な参加を促している。</p>	<p>学生委員会としては、経営学部の特徴を発信するために、ゼミ研究、海外研修、地域連携イベントなど、学生参加のプロジェクト活動を、HP、SNS、学園祭、卒業研究・制作展などで積極的に情報発信するように今後も教員に促していく。</p>	<p>2 ◎経営学部長（佐野） ●学生委員長（高橋・谷口昭） △学生支援課（増田・萩原） △広報・メディア課（岩崎）</p>		
<p>&lt;大学運営&gt; 2 キャンパスを効果的なDX化によって、効率的に接続し、学生、教職員のキャンパス間の距離感を縮めていく。 会議、イベント等は対面式を重視し、キャンパス間は遠隔会議室システムや、小会議室間はZoomで接続等を活用する。</p>	<p>教授会の磐田C「第1会議室」+「藤枝C「第3会議室」の2元中継対面開催の徹底化を進めた。教務委員会、学生委員会などの主要委員会の「遠隔会議システム」利用による対面重視会議の実施を進めている。</p>	<p>教授会への対面参加の徹底を進めた。議長の進行は隔月で磐田Cと藤枝Cを行き来する形で行った。ただし、学生懲戒など重要案件がある場合は当該キャンパスより進行を行うように努めた。主要委員会の「遠隔会議システム」利用による対面重視会議の実施をさらに浸透させていく。</p>	<p>&lt;大学運営&gt; ◎●学部長（佐野）</p>		
将来構想					
項 目	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
<p>1. 大学のブランド形成</p>	<p>大学の<b>ブランド形成</b> 「<b>就職に強い静産大</b>」 「<b>実学（フィールドワーク）の静産大</b>」 「<b>探究の学びの静産大</b>」 「<b>SDGsの静産大</b>」 「<b>数理・データサイエンス・AI教育の静産大</b>」</p>	<p>「<b>就職に強い静産大</b>」 充実した就職実績を高校生・保護者・高校の先生・企業の採用者に伝えるコンテンツの整備を始めている。 「<b>実学（フィールドワーク）の静産大</b>」 充実したPBL、ゼミの学びをタイムリーに紹介する発信の整備を始めている。 「<b>探究の学びの静産大</b>」 地域の高校との探究コンソーシアムの活動を紹介するコンテンツの整備を進めている。 「<b>SDGsの静産大</b>」 SDGsの静産大を代表するコンテンツの収集段階。 「<b>数理データサイエンス・AI教育の静産大</b>」 文科省の認定ロゴ「MDASH」の積極的活用とWebでの紹介準備を進めている。</p>	<p>「<b>就職に強い静産大</b>」 大学案内において強く訴えるところと、Webにおいても周知を強めているところである。 「<b>実学（フィールドワーク）の静産大</b>」 ふじのくに地域・大学フォーラムにおいて、PBL・ゼミ活動を報告するとともに活動内容をWebで広く広報を展開しているところである。 「<b>探究の学びの静産大</b>」 志太・榛原地区の公立13校との探究フォーラムの活動を皮切りに県内の様々な高校との探究活動サポートの連携を進めている。県教育委員会との連携により県内高校への探究活動サポートの周知を図っているところである。 「<b>SDGsの静産大</b>」 ゼミ活動等の中でSDGsに関連する内容をWebやSNSで紹介をしているところである。 「<b>数理データサイエンス・AI教育の静産大</b>」 文科省のプログラム認定を受けたことの周知の徹底化と、AI教育の充実のためのカリキュラム内容を検討しているところである。</p>	<p>1 ◎経営学部長（佐野） ●学部長（佐野） △教務課（佐野温・中村） △キャリア支援課（日高・斉藤） △広報・メディア課（岩崎）</p>	
<p>2. キャンパスの特性を見極め、強みを伸ばす教育</p>	<p><b>キャンパスの特性を見極め、強みを伸ばす教育</b> キャンパスが立地する<b>地域（磐田市・藤枝市）</b>との連携を踏まえた<b>コース設定と地域連携科目の設置と活用</b></p>	<p>地域における課題解決への取り組みを生かし、下記の8つのコースを設定した。【経営コース】【会計コース】【地域ビジネスコース】【AI データサイエンスコース】【観光・文化コース】【スポーツビジネスコース】【ビジネス心理コース】【ものづくり感性コース】</p>	<p>8つのコースと各キャンパスの特色を定めたが、地域との連携は未だ強化されていない。そのため、各キャンパスの特色を各市へアピールし、それを強化するための連携事業を増やしていきたい。</p>	<p>2 ◎経営学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）</p>	



<p>3. 2キャンパスにわたる学部の教育及び運営の効率化とその成果の向上</p>	<p><b>2キャンパスにわたる学部の教育及び運営の効率化とその成果の向上</b></p> <p>教授会、諸委員会の<b>対面（遠隔会議システム）の利用</b>による円滑な運用への移行</p> <p><b>対面授業の充実とデジタルコンテンツの活用</b></p> <p><b>数理・データサイエンス・AI教育認定プログラムの認定</b>に並行してPC必携化による「<b>データに強い静産大</b>」の実現</p> <p><b>学生データの統合</b>と画像、映像データの活用による<b>学生の学びの共有化と視覚化</b></p>	<p>教授会はTV会議システムを併用して対面実施されている。委員会は、対面実施が3、対面とTV会議システムの併用が1。キャンパス間を接続する委員会については、資料の画面共有の都合もあるためか、Zoom利用が多くなっている。</p> <p>授業全体の98%が対面授業で実施されている。デジタルコンテンツについては、授業担当教員の判断で活用されている。コンテンツ活用に関する教員間での情報共有については未整備。</p> <p>8月に数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を受けた。</p> <p>現時点では未整備。</p>	<p>教授会・諸委員会の実施に関する状況は、上期と同様である。</p> <p>諸委員会の対面実施については、遠隔会議システムの性能向上が課題。教授会のように大規模なマイク等の配線ができないため、音声の聞き取りにくさなど、機能面でZoom利用のメリットが相対的に大きい。対面授業の割合も前期と同程度で、昨年度の対面授業の割合（93.7%）よりも増加した。授業の計画は年度単位であるため、デジタルコンテンツの活用については引き続き教員の判断で行われており、教員間の情報共有は未整備。</p> <p>PC必携化については、次年度も同様に入学時点では多様な機器の持ち込みを認める方式（購入を必須としない方式）とすることとなった。</p> <p>併せて、実現および推進に向けた合意形成が課題。これまでの協議において費用面（入学者に支出を強いること）への懸念から、入学後に必要性を感じさせて購入を促す方式となっているが、カリキュラムに関与しないICT委員会では協議が困難。</p> <p>学生データの統合と画像、映像データの活用による学生の学びの共有化と視覚化については未整備。</p> <p>学生データの統合と画像、映像データの活用による学生の学びの共有化と視覚化、デジタルコンテンツの活用については、共有化の方法（公開場所、検索・アクセス方法等）の整備、制度面（録画や広報に関連した公開等への学生の同意、担当教員に画像や映像データでの記録を促す仕組みおよびその作業にかかる負荷軽減策等）の整備が必要と思われる。</p>	<p>3</p> <p>◎経営学部長（佐野）</p> <p>●教務委員長（永田）</p> <p>●ICT委員長（久保田）</p> <p>△教務課（佐野温・中村）</p> <p>△情報システム課（野依）</p>	
---	--	--	---	--	--